

第 11 回「東大路通歩行空間創出推進会議」

議 事 摘 録

日時 平成 29 年 3 月 29 日（水）

午後 3 時 15 分から午後 4 時 45 分まで

場所 東山区役所大会議室（3 階）

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 平成 28 年度の取組について
 - (2) 今後の進め方（取組内容（案））について
- 3 閉会

【配布資料】

- ・ 議事次第, 委員一覧, 配席図
- ・ 資料 第 11 回「東大路通歩行空間創出推進会議」資料
- ・ 別紙 取組内容（案）



写真 開催状況

1 開会

【開会の挨拶】

(佐伯交通政策監:京都市)

- ◆ 本日は観光地交通対策と連携した社会実験の結果について御報告を予定しているので、東山交通対策研究会に御出席された皆様にも引き続き御出席をお願いしているところである。
- ◆ 本事業は東大路通における安全・安心な歩行空間の創出のため、皆様の御意見を伺いながら、慎重に検討を進めてきた。昨年度の会議では、現時点で道路の二車線化を実施するのではなく、今後中長期的に検討していくということで、まずは東大路通が抱える喫緊の課題について、交通影響が少なく効果的な改善策の検討を進めていくことで御理解を得たところである。
- ◆ 本年度は、取組の考え方等を周知するとともに、御意見を賜る等、地域の皆様との情報共有を中心とした取組を進めてきた。前回の会議では、本市が検討を進めている素案を提示するとともに、その一部について社会実験を実施し、意見交換会等により内容を充実することについて説明した。
- ◆ 本日の会議では、社会実験や意見交換会の結果を説明するとともに、これらを踏まえた取組内容の案、スケジュールについて御提示したいと考えている。
- ◆ 東大路通における安全・安心な歩行空間の創出の実現には、地域の皆様から広く御意見を伺い、委員の皆様から様々なお知恵をお借りすることが不可欠であると考えている。忌憚のない活発な御意見を賜りますようお願い申し上げます。

(議長)

- ◆ 今年度は新しい方針を示し、地域の方との意見交換をしながら 1 年間かけて取組内容(案)を検討してきた。
- ◆ また、それを踏まえて今後の進め方をどうするか、事務局の説明の後で御意見を頂きたい。

2 議事

【事務局による資料説明】

- ◆ 議事 1「平成 28 年度 of 取組について」
- ◆ 議事 2「今後の進め方（取組内容（案））について」

【質疑応答】

(議長)

- ◆ 今年度実施した、社会実験や意見交換会の結果を踏まえ、取組内容(案)について市から提案があった。

- ◆ 社会実験等の調査結果への御意見、今後の取組に繋がる御提案等について御発言をお願いします。

(地元代表)

- ◆ 地元要望として、JR 東大路駅の新設を提案したい。二車線化が凍結された中、提示のあった取組は悪く言うようであるが、大した施策が考えてられていないように思う。また、今熊野商店街を含め七条以南に至っては対策がない。
- ◆ 東大路駅については JR 西日本としては認可しているが、予算面で京都市が実施不可としており、忘れ去られることを危惧している。地元としては戦後から要望をだしており、やっと JR 西日本の認可にこぎつけたというところである。認可の翌年には東山トンネル付近でボーリング調査が実施され、いつ事業が動くのかと心待ちにしているが、何の進展もない。
- ◆ 東大路駅の設置は、歩くまち・京都の実現に合致した事業と考えている。無期限でなく期限付きで御検討いただきたい。

(事務局)

- ◆ 東大路駅については、前回の会議でも御意見を頂いたが、東海道本線の便数が多く施工時間が非常に短くなること等、様々な観点から事業化は困難であると回答しているが、現時点で状況は変わっていない。
- ◆ また、JR 西日本が認可しているものではない。
- ◆ 七条以南で取組がないという点については、まずは通行者が多く、歩道における課題が集中している四条～五条の取組を進めることとしており、その知見を東大路通全体へ拡大していきたいと考えている。

(高畑委員:京都市都市計画局歩くまち京都推進室)

- ◆ 東大路駅の設置には、貨物車両が通過し施工時間が限られる中、莫大な工事費がかかってくる。そうした投資に見合うだけの乗降需要が果たしてあるのかということも事業の進展が難しい理由のひとつである。
- ◆ 七条以南の公共交通については、JR・京阪の東福寺駅と市バスの連携も含めた公共交通の利便性向上が重要と考えており、東大路駅の新設だけでなく様々な選択肢で議論を進めていきたい。

(地元代表)

- ◆ 東大路駅の乗降需要については、新駅設置要望に関する署名を行った時に調査しており、学校や寺社仏閣等があることから問題ないと考えている。莫大な予算がかかることはわかるが、次世代のことを考え、あえて提案させていただいた。

(議長)

- ◆ 本事業の目的とは異なるが、市全体の広域的な交通施策として受け止め、長期的な目線で検討してほしいと思う。

(地元代表)

- ◆ 師団街道の九条跨線橋下の信号が変則で、時間帯によって渋滞している。今後、新十条通の無料化により交通量が増えることも考えられるので、もう一度信号の設定について検討してほしい。

(事務局)

- ◆ 信号は公安委員会の所管であり、現状を確認し個別に回答したい。また、新十条通の無料化や、鴨川東岸線と九条跨線橋の接続に伴う交通転換については、今後総合的に対策を考えたい。

(副議長)

- ◆ この会議は東大路通の歩行空間ということで東大路以外は対応しづらいのかもしれないが、東大路通につながっている道としては五条坂の歩行空間が悪く交通量が多い。また、東大路通より西側の松原通の車も多い。
- ◆ 東大路通以外の道においても、交通の分散が図れるか、一緒に検討すべきではないか。

(事務局)

- ◆ 東大路通の負荷を減らすため、観光客の回遊性を高め、東大路通の東側・西側に分散させる等、交通をコントロールして、歩行環境の改善を図りたいと考えている。
- ◆ 五条坂が混雑するので、以前にも増して松原通の歩行者が増え、車の間を縫って歩行者が通行している危険な状況である。五条坂は狭い歩道に歩行者が集中し、歩道から歩行者が溢れている。観光地交通対策とも連携しながら、議論していきたいと考えている。

(副議長)

- ◆ 周辺道路の整備状況を見ると、二寧坂、産寧坂、ねねの道等の界限は石畳舗装等の整備は進んでいる。一方、それ以外の路線を見るとまだまだ整備が進んでいない。
- ◆ 近年は全国各地からの出店が相次ぎ、飲食店の範囲が西側に拡大している。その範囲は東大路通を超えてさらに拡大が進んでおり、最終的には和食文化のメッカである建仁寺まで繋がると思われる。
- ◆ 東大路通を中心に周辺との繋がりを考えることが重要である。長期的なスパン

を見据え、面的なエリア整備も含め、道路環境をどのように整備していくか検討してほしい。

(事務局)

- ◆ 文化という視点も踏まえ、長期的な展望で回遊性を高める検討をしていきたいと思う。

(地元代表)

- ◆ 商店街のアーケードを、レンタルサイクルが連なって走っている。自転車への対策として、商店街では四か国語で記載した注意喚起のポスター(自転車は歩道を通行してはいけないという内容)を掲示しているが効果が出ない。日本の方には気軽に声をかけられるが、観光で来られている外国の方に注意することは難しい。外国の方へ自転車は歩道を走ってはいけないと、啓発してほしい。

(長谷川委員(代理出席:荒木氏):京都市建設局自転車政策推進室)

- ◆ 本市では、「京都・新自転車計画」に基づき自転車のルール・マナーの啓発を行っている。外国の方に対しては、レンタサイクル事業者と連携し、啓発チラシの配布を行っている。御意見は今後の対策に活かしたいと思う。

(副議長)

- ◆ 祇園バス停のバス停型式の変更に伴う後続車阻害については交通量に依存していると思う。交通量が増加すると車線変更がスムーズに行かず影響が大きくなると思われるので慎重に検討することが必要である。

(事務局)

- ◆ 今回は比較的空いているときに調査しており、バス停形式の変更によって影響が顕著に現れないということを確認した。交通状況により影響が変化する可能性があるので、実施にあたっては御指摘を踏まえて引き続き検討していきたい。

(副議長)

- ◆ アムステルダムは自転車利用が盛んで観光客も自転車に乗るようなまちであるが、レンタサイクルに乗っているとき、歩道通行と無灯火で2回罰金を取られた経験がある。京都でも積極的に取り締まってはどうか。
- ◆ 大学では、自転車のルールに疎い学生もいるので新入学生に対して自転車のルールを教えるようにしている。外国人の方に対しても積極的にコミュニケーションをとり、ルールを教えてあげることが必要である。

(議長)

- ◆ 取組内容(案)について特に異論はなく、自転車への対策や回遊性を高めるための地域づくり等の中長期的視点での御意見が多く挙げられた。
- ◆ 観光客の回遊性を高めるということは、観光資源があるということだけでなく、魅力的な地域作りや情報発信をしている場所に観光客が来るということもあり、まちづくりと密接に関係している。例えば、熊本県の山鹿では、17 年前から酒屋や米屋、せんべい屋等からなる商店街がツアーを企画している。十数年、取組を継続することで、人々が繰り返し訪問するという変化が生まれた。
- ◆ 東大路通においても、交通対策やハード整備だけでなく、東山区のまちづくりの視点や、周辺の区と連携した広域的な視点で取り組んでほしいと思う。
- ◆ 取組内容(案)とスケジュールについては了解を得たということで、平成 32 年度にむけて引き続き、意見を交換しながら、歩行環境の改善を進めていってほしい。

3 閉会

【閉会の挨拶】

(高畑委員:京都市都市計画局歩くまち京都推進室)

- ◆ いただいた貴重な御意見は歩くまちの施策だけでなく、東山区の施策や観光政策やまちづくりの取組にも反映させていきたい。
- ◆ 御提示したスケジュールのとおり、平成 29 年度からは、具体的に工事に着手していく。関係する地元の皆さんには工事期間中は御迷惑をおかけすることとなるが、工事調整等を行いながら進めていくので、御協力をお願いしたい。
- ◆ 先ほどの会議であった観光地としての特性を踏まえた交通対策については、本会議と重複する面があるので、両方の取組を連携して進めていきたい。
- ◆ 地元からの御意見が取組の意義をより高めることから、引き続き御意見を賜りたいと考えている。

(以上)